

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第6970463号
(P6970463)

(45) 発行日 令和3年11月24日 (2021. 11. 24)

(24) 登録日 令和3年11月2日 (2021. 11. 2)

(51) Int. Cl.

A 4 5 C 3 / 00 (2006. 01)

F I

A 4 5 C 3 / 00

P

請求項の数 4 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2020-30298 (P2020-30298)	(73) 特許権者	506413694
(22) 出願日	令和2年2月26日 (2020. 2. 26)		株式会社クロンティップ
(65) 公開番号	特開2021-132808 (P2021-132808A)		東京都豊島区目白4丁目31番22号
(43) 公開日	令和3年9月13日 (2021. 9. 13)	(74) 代理人	100107102
審査請求日	令和3年8月16日 (2021. 8. 16)		弁理士 吉延 彰広
早期審査対象出願		(74) 代理人	100164242
			弁理士 倉澤 直人
		(74) 代理人	100172498
			弁理士 八木 秀幸
		(72) 発明者	藤倉 和実
			東京都豊島区目白4丁目31番22号 株
			式会社クロンティップ内
		審査官	大内 康裕
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バッグ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、
前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、
前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、
前記ホルダ部材は、前記ストラップの幅よりも長い領域で前記持ち手を覆ったものであ
って、該持ち手に沿って移動可能なものであり、
前記ストラップは、前記袋体の底側の左右いずれか一方側に付け替え自在なものであ
って、前記持ち手を使用者の左肩にかけ該袋体の一方側の胴を該使用者側にした状態では、
該一方側の胴を正面視した場合に、該持ち手に沿って正面視右側に移動させた前記ホルダ
部材と前記袋体の底側の正面視左側を結び、該持ち手を使用者の右肩にかけ該一方側の胴
を該使用者側にした状態では、該一方側の胴を正面視した場合に、該持ち手に沿って正面
視左側に移動させた該ホルダ部材と該袋体の底側の正面視右側を結ぶものであることを特
徴とするバッグ。

【請求項 2】

前記ホルダ部材は、前記持ち手から取り外し自在なものであることを特徴とする請求項
1記載のバッグ。

【請求項 3】

前記袋体は、第1胴と第2胴の間に収納空間を有するものであり、
前記持ち手は、前記第1胴に設けられた第1持ち手と、前記第2胴に設けられ、該第1

持ち手とは離れた第2持ち手を含むものであり、

前記ホルダ部材は、前記第1持ち手と前記第2持ち手を一つにまとめるものであることを特徴とする請求項1又は2記載のバッグ。

【請求項4】

前記ホルダ部材は、前記持ち手に巻き付けられたものであり、

前記ストラップは、前記ホルダ部材に巻き付けられたものであることを特徴とする請求項1乃至3のうちいずれか1項記載のバッグ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体を備えたバッグに関する。

【背景技術】

【0002】

バッグは、ファッション性と機能性とを兼ね備えた服飾雑貨として人気があり、いわゆるボストンバッグやトートバッグなど多数の形態のものがある。特に、肩にかけることが可能な持ち手を有するバッグは、使用者の肩にかけられた状態では両手を拘束しないので多用途に使用することが可能であり、幅広い年齢層に利用されている。

【0003】

この肩にかけることが可能な持ち手を有するバッグを、使用者の肩にかけて使用していると、その持ち手が肩からずり落ちてしまうことがある。そのずり落ち防止策として、本願出願人はこれまで、いくつかの提案を行っている（例えば、特許文献1または特許文献2参照）。本願出願人のこれらの提案によって、持ち手が肩からずり落ちてしまうのではないかといったストレスを感じることなくバッグを使用することができるようになり、これらの提案を採用したバッグの使用用途は広がっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】国際公開公報W2015/019996

【特許文献2】国際公開W2018/97002

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

使用用途が広がってくると、バッグに重たいものを収納して使用する場面が出てくる。この場面では、持ち手が変形して肩に食い込むことを低減することが望まれる。

【0006】

本発明は上記事情に鑑み、持ち手が変形して肩に食い込むことを低減することができるバッグを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を解決する本発明のバッグは、

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、

前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、

前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、

前記ホルダ部材は、前記ストラップの幅よりも長い領域で前記持ち手を覆ったものであって、該持ち手に沿って移動可能なものであり、

前記ストラップは、前記袋体の底側の左右いずれか一方側に付け替え自在なものであって、前記持ち手を使用者の左肩にかけ該袋体の一方側の胸を該使用者側にした状態では、該一方側の胸を正面視した場合に、該持ち手に沿って正面視右側に移動させた前記ホルダ部材と前記袋体の底側の正面視左側を結び、該持ち手を使用者の右肩にかけ該一方側の胸を該使用者側にした状態では、該一方側の胸を正面視した場合に、該持ち手に沿って正面

10

20

30

40

50

視左側に移動させた該ホルダ部材と該袋体の底側の正面視右側を結ぶものであることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

本発明のバッグによれば、前記ホルダ部材が前記ストラップの幅よりも長い領域で前記持ち手を覆うことで、前記ホルダ部材が前記持ち手に広い範囲で接することになり、点で接する場合よりも一箇所にかかる力が小さくなり、該持ち手の変形する場合であっても、該持ち手は広い範囲にわたって変形するため、1箇所において変形するよりも変形の程度は小さくてすみ、該持ち手の変形して肩に食い込むことを低減することができる。

【 0 0 1 0 】

また、前記ストラップは、前記持ち手が使用者の肩にかけられ、前記袋体の収納部が該使用者の背中側に位置する場合に、該使用者の胸側で、前記持ち手と前記袋体の底側とを互いに引き寄せることで、該収納部の一部が使用者の背中に接触した状態を維持するものであってもよい。すなわち、前記ストラップは、前記持ち手が使用者の肩にかけられて使用する場合に、前記持ち手がかけられた使用者の肩とは反対側の肩が存在する体側に向かって、該袋体の収納部およびこのストラップが接続された前記ホルダ部材が取り付けられた持ち手を引っ張り、該収納部の一部が使用者の背中に接触した状態を維持するものであってもよい。

【 0 0 1 1 】

また、

前記ホルダ部材は、前記持ち手に沿って移動可能なものであることを特徴とすることが好ましい。

【 0 0 1 2 】

こうすることで、前記ストラップの、前記持ち手側の位置を簡単に調節することができる。また、前記袋体に収納された荷物の重さは、前記持ち手に直接かかる下向きの力と、前記ホルダ部材を介して該持ち手が前記ストラップによって引っ張られる力とに分力される。バッグを装着して動くうちに、該持ち手に直接かかる下向きの力と、該持ち手が前記ストラップによって引っ張られる力とが最もバランスした位置に前記ホルダ部材が自然と位置するようになる場合があり、該持ち手の変形して肩に食い込むことをより低減することができる場合がある。

【 0 0 1 3 】

また、

前記ホルダ部材は、前記持ち手から取り外し自在なものであることを特徴としてもよい。

【 0 0 1 4 】

前記ホルダ部材もバッグのデザインの一部を構成するものである。前記持ち手を肩に付けるのではなく手に持つ場合には、該ホルダ部材を取り外せば、全体的なイメージが少し変わったバッグとして使用することができるようになる。

【 0 0 1 5 】

また、

前記袋体は、第1胴と第2胴の間に収納部を有するものであり、
前記持ち手は、前記第1胴に設けられた第1持ち手と、前記第2胴に設けられ、該第1持ち手とは離れた第2持ち手を含むものであり、

前記ホルダ部材は、前記第1持ち手と前記第2持ち手を一つにまとめるものであることを特徴としてもよい。

【 0 0 1 6 】

前記第1持ち手と前記第2持ち手といった2つの持ち手を一つにまとめることができれば、持ち手全体としての強度が高まり、該持ち手の変形して肩に食い込むことがより低減される。また、前記ホルダ部材によって前記第1持ち手と前記第2持ち手が一つにまとめられていれば、肩にかけた場合に一方の持ち手のみが肩からずり落ちることがなくなる。

【 0 0 1 7 】

また、

前記ホルダ部材は、前記持ち手に巻き付けられたものであり、

前記ストラップは、前記ホルダ部材に巻き付けられたものであることを特徴とした態様であってもよい。

【００１８】

この態様によれば、簡単な構造で前記ストラップを前記ホルダ部材に接続させることができる。

【発明の効果】

【００１９】

本発明のバッグによれば、持ち手が変形して肩に食い込むことを低減することができる 10

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】第１実施形態のバッグを示す正面図である。

【図２】図１に示すバッグの側面を模式的に示した図である。

【図３】図１に示すバッグの収納部を背中側で固定する例を模式的に示す図である。

【図４】図１に示すバッグの変形例を示す図である。

【図５】第２実施形態のバッグを示す正面図である。

【図６】図５に示すバッグの変形例を示す図である。

【図７】第３実施形態のバッグを示す正面図である。 20

【発明を実施するための形態】

【００２１】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

【００２２】

図１は、第１実施形態のバッグを示す正面図であり、図２は、図１に示すバッグの側面を模式的に示した図である。

【００２３】

図１に示すバッグ１は、袋体１１と、ホルダ部材１２と、ストラップ１３を備えている。袋体１１は、図２に示すように、第１胴１１１と、第２胴１１２と、底部１１３を有する。第１胴１１１と第２胴１１２は、ナイロン製であり、同じ形状であって同じ大きさである。第１胴１１１と第２胴１１２は、互いの左右両側どうしが縫い合わされており、第１胴１１１の下端部と第２胴１１２の下端部は、革製の底部１１３で結ばれている。すなわち、第１胴１１１と第２胴１１２の間に収納部１１０が設けられており、第１胴１１１の上縁と第２胴１１２の上縁の間が、収納部１１０につながる開口になる。この開口は、ファスナやボタン等の留め具によって閉じた状態を維持できるようにしてもよい。 30

【００２４】

図２には、この収納部１１０に荷物を詰め込み収納部１１０が膨らんだ状態のバッグ１が示されている。また、図２に示すバッグ１からは、ストラップ１３が取り外されており、図２にはストラップは示されていない。第１胴１１１には第１持ち手１１６が取り付けられており、第２胴１１２には第２持ち手１１７が取り付けられている。図１は、第１胴１１１側から見た図であり、この図１には、第１持ち手１１６が第１胴１１１に縫い付けられた縫い目ｓｔが示されている。以下、第１持ち手１１６と第２持ち手１１７を総称して単に持ち手１１５と称する場合がある。持ち手１１５は、肩にかけることが可能な長さのものであり、本実施形態のバッグ１は、いわゆるトートバッグと呼ばれるものである。 40

【００２５】

第１持ち手１１６と第２持ち手１１７は、図２に二点鎖線で示すように互いに離れているが、実線で示すようにホルダ部材１２によって一つにまとめられる。ホルダ部材１２は、第１持ち手１１６と第２持ち手１１７を重ね合わせた状態で、これらの持ち手に巻き付けられたものである。図１に示すバッグ１では、ホルダ部材１２は、持ち手１１５の右側（バッグ１自身からすれば左側）の付け根部分に取り付けられているが、図２示すバッグ 50

１では、ホルダ部材１２は、持ち手１１５の一番高い位置に取り付けられている。ホルダ部材１２は、持ち手１１５に沿って移動可能なものである。

【００２６】

図１に示すストラップ１３は、長尺の帯状のものである。ホルダ部材１２は、ストラップ１３の幅Ｗ１よりも長い領域Ｗ２で持ち手１１５に接している。ホルダ部材１２が持ち手１１５に接している領域Ｗ２は、ストラップ１３の幅Ｗ１の３倍以上であるが、２倍以上であってもよい。

【００２７】

袋体１１の底側の左右部分それぞれには、外向きにＤカン１１８が取り付けられている。すなわち、Ｄカン１１８は、第１持ち手１１６の取り付け部分の下端部に外向きに取り付けられている。一方、ストラップ１３の一端には、ナスカン１３１が設けられている。このナスカン１３１は、左右いずれか一方のＤカン１１８に接続される。図１では、ナスカン１３１は、左側（バッグ１自身からすれば右側）のＤカン１１８に接続されている。なお、図２に示すように、Ｄカン１１８は、第１胴１１１に取り付けられているが、第２胴１１２には取り付けられていない。図１に示すバッグ１の収納部１１０を背中側で固定する場合、第１胴１１１を背中側に向けることで、Ｄカン１１８とナスカン１３１の接続している箇所が見えなくなる。

【００２８】

図１に示すストラップ１３の他端、すなわち、ナスカン１３１が設けられた側とは反対側には、接続部１３２が設けられている。図１に示す接続部１３２は、凹部と凸部が長手方向に間隔をあけて設けられ、ループ状にして凹部と凸部を押し合わせて接続するスナップボタン（ホック）式のものである。ホルダ部材１２には、スリット１２１が設けられている。接続部１３２は、ホルダ部材１２に巻き掛けられ、このスリット１２１を通してループ状になり、スナップボタン１３２１によって留められることで、ホルダ部材１２に接続している。図１に示すように、ストラップ１３は、袋体１１の底側とホルダ部材１２を結んでいる。

【００２９】

図３は、図１に示すバッグ１の収納部１１０を背中側で固定する例を模式的に示す図である。図３（ａ）は使用者Ｈを正面から示す図であり、同図（ｂ）は使用者Ｈを背面から示す図である。

【００３０】

図１に示すバッグ１は、ストラップ１３を用いずに、持ち手１１５を肩にかけて使用することもできるが、それでは、持ち手１１５が肩からずり落ちることが気になる場合がある。また、収納部１１０が大きく揺れてしまうことが気になる場合もある。これらの場合には、ストラップ１３を使用して、持ち手１１５が肩からずり落ちることを防止するとともに、使用者Ｈの体にバッグ１をフィットさせ収納部１１０の揺れも抑えることができる。

【００３１】

まず、使用者Ｈは、左右どちらかの肩に持ち手をかける。この図３に示す例では、ホルダ部材１２によって一つにまとめられた持ち手１１５が使用者Ｈの左肩ＬＳにかけられている。持ち手１１５を左肩ＬＳにかける場合には、図１に示すバッグ１のように、ストラップ１３のナスカン１３１は、バッグ１自身からすれば右側のＤカン１１８に接続しておく。一方、ストラップ１３の接続部１３２は、ホルダ部材１２に未接続の状態にしておく。また、ホルダ部材１２は、持ち手の一番高い位置から、持ち手１１５の右側（バッグ１自身からすれば左側）の付け根部分の間に位置させておく。すなわち、持ち手１１５を使用者Ｈの左肩ＬＳにかけた場合には、ホルダ部材１２が正面側に位置するようにしておく。

【００３２】

図３（ｂ）に示すように、Ｄカン１１８が設けられた第１胴１１１を使用者Ｈの背中ＢＫ側に向け、ストラップ１３を、持ち手をかけた側とは反対側（この例では右側）の脇の

10

20

30

40

50

下を通して、ストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 が正面側にくるようにストラップ 1 3 を回し込む。袋体 1 1 の姿勢は、少し斜めの姿勢（袋体 1 1 自身からすれば右側の底部が右側に持ち上げられた斜めの姿勢）になる。使用者 H を後から見た場合、第 2 胴 1 1 2 が見えるだけであって、D カン 1 1 8 は見えない。

【 0 0 3 3 】

ストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 を、ホルダ部材 1 2 に巻き掛け、ホルダ部材 1 2 のスリット 1 2 1 を通してループ状にし、スナップボタン 1 3 2 1 によって留める。

【 0 0 3 4 】

こうすることで、バッグ 1 の収納部 1 1 0 が背中側に固定される。ストラップ 1 3 の長さ、あるいはホルダ部材 1 2 の位置によって、持ち手 1 1 5 が内側（この例では右側）に引っ張られる程度は異なるが、持ち手 1 1 5 が内側に引っ張られていることで、持ち手 1 1 5 が肩から外側へずり落ちることが防止されている。また、袋体 1 1 は、斜めの姿勢になるほどストラップ 1 3 によって引っ張られており、収納部 1 1 0 が大きく揺れてしまうことも抑えられている。

【 0 0 3 5 】

本実施形態のバッグ 1 によれば、ホルダ部材 1 2 が持ち手 1 1 5 に面で接することになり、点で接する場合よりも一箇所にかかる力が小さくなり、持ち手 1 1 5 が変形する場合であっても、持ち手 1 1 5 は広い範囲にわたって変形するため、1 箇所において変形するよりも変形の程度は小さくてすみ、持ち手 1 1 5 が変形して肩に食い込むことを低減することができる。また、収納部 1 1 0 に重い荷物を収納しても、持ち手 1 1 5 が破損することも低減される。

【 0 0 3 6 】

また、ホルダ部材 1 2 は、持ち手 1 1 5 に沿って移動可能なものであるため、持ち手 1 1 5 に対するストラップ 1 3 の接続位置を、無段階に連続して容易に変えることができる。収納部 1 1 0 に収納された荷物の重さは、持ち手 1 1 5 に直接かかる下向きの力と、ホルダ部材 1 2 を介して持ち手 1 1 5 がストラップ 1 3 によって引っ張られる力とに分力される。ホルダ部材 1 2 を上の位置に取り付けた状態で、ストラップ 1 3 に多少の緩みを与えてバッグ 1 の収納部 1 1 0 を背中側に固定すると、使用者 H が動いていくうちに、持ち手 1 1 5 に直接かかる下向きの力と、持ち手 1 1 5 がストラップ 1 3 によって引っ張られる力とが最もバランスした位置にホルダ部材 1 2 が落ちていき、持ち手 1 1 5 が変形して肩に食い込むことをより低減することができる場合がある。

【 0 0 3 7 】

さらに、ホルダ部材 1 2 をできるだけ下方に取り付け、ストラップ 1 3 のうち胸側に位置する部分を下げることで、胸の周りがあるリンパ線を押さえることを避けることができる。また、女性の場合には、乳房を避けることができ、バッグ 1 を装着することの抵抗を無くすことができる。これらの場合、肩にかけた持ち手 1 1 5 の、第 1 胴 1 1 1 側の端部にホルダ部材 1 2 を取り付ければよく、持ち手 1 1 5 は長い方が好ましい。例えば、肩にかけた持ち手 1 1 5 の、第 1 胴 1 1 1 側の端部にホルダ部材 1 2 を取り付けした場合、胸側を走るストラップ 1 3 がほぼ水平（例えば、図 3（a）の場合は 1 4 5 度程度であるが、1 6 0 度以上 1 8 0 度以下が好ましい）になる程度の長さが持ち手 1 1 5 にあることが好ましい。

【 0 0 3 8 】

加えて、ホルダ部材 1 2 によって、第 1 持ち手 1 1 6 と第 2 持ち手 1 1 7 は一つにまとめられ、持ち手全体としての強度が高まり、持ち手 1 1 5 が変形して肩に食い込むことがより低減される。また、ホルダ部材 1 2 によって第 1 持ち手 1 1 6 と第 2 持ち手 1 1 7 が一つにまとめられていれば、肩にかけた場合に一方の持ち手のみが肩からずり落ちることがなくなる。

【 0 0 3 9 】

図 4 は、図 1 に示すバッグ 1 の変形例を示す図である。以下、図 1 に示すバッグ 1 との相違点を中心に説明し、これまで説明した事項と重複する事項については説明を省略する

10

20

30

40

50

場合がある。また、これまで説明した構成要素の名称と同じ名称の構成要素には、これまで付した符号と同じ符号を付して説明する。

【 0 0 4 0 】

図 4 (a) は、変形例のバッグ 1 の持ち手 1 1 5 を左肩 L S につけ、背中側で収納部 1 1 0 を固定した使用者 H を正面から示す図である。

【 0 0 4 1 】

この変形例では、ストラップ 1 3 が、図 1 に示すストラップと異なる。図 4 (a) に示すストラップ 1 3 には、長さ調節部材 1 3 3 と、バックル 1 3 4 が設けられている。長さ調節部材 1 3 3 は、長方形の枠体と、枠体の短辺どうしを接続した、不図示の固定軸と出口軸 1 3 3 1 が一体に成形された樹脂製のものである。以下、図 4 (a) に示す長さ調節部材 1 3 3 の、紙面手前側を表側といい、紙面奥側を裏側という。ストラップ 1 3 を構成するベルト体 1 3 a の一端側は、長さ調節部材 1 3 3 の固定軸に固定されており、他端側は、ナスカン 1 3 1 の取付リング 1 3 1 a (図 1 参照) に通された後、固定軸に表側から巻き掛けられ、次いで出口軸 1 3 3 1 に裏側から巻き掛けられている。そして、ベルト体 1 3 a の他端は、出口軸 1 3 3 1 を経てバックル 1 3 4 に固定されている。すなわち、長さ調節部材 1 3 3 の固定軸とナスカン 1 3 1 の取付リング 1 3 1 a (図 1 参照) の間は、ベルト体 1 3 a が二重構造になっており、固定軸とバックル 1 3 4 の間は、ベルト体 1 3 a は一重構造である。したがって、長さ調節部材 1 3 3 をナスカン 1 3 1 側に移動させると、二重構造部分が一重構造になってベルト体 1 3 a の長さは長くなる。反対に、長さ調節部材 1 3 3 をバックル 1 3 4 側に移動させると、一重構造部分が二重構造になってベルト体 1 3 a の長さは短くなる。

【 0 0 4 2 】

図 4 (b) は、バックル 1 3 4 を示す図である。

【 0 0 4 3 】

バックル 1 3 4 は、ベルト体 1 3 a が固定された内側部 1 3 4 1 と、接続部 1 3 2 が固定された外側部 1 3 4 2 を有する連結部材である。内側部 1 3 4 1 の先端側は、外側部 1 3 4 2 の内側に収納される。内側部 1 3 4 1 の先端 1 3 4 1 t には磁石が配置されている。また、外側部 1 3 4 2 の内側における、内側部 1 3 4 1 の先端 1 3 4 1 t と対向する部分にも磁石が配置されている。図 4 (b) に示す矢印のように、内側部 1 3 4 1 をスライドさせることで、外側部 1 3 4 2 との脱着が可能である。特に、連結時には磁力によって外側部 1 3 4 2 と内側部 1 3 4 1 は容易に連結される。

【 0 0 4 4 】

図 4 (c) は、図 1 に示すホルダ部材 1 2 を開いた状態で示す図である。この変形例におけるホルダ部材 1 2 も、図 1 に示すバッグ 1 におけるホルダ部材と同じである。ホルダ部材 1 2 は、基部 1 2 a と、凸部 1 2 2 が設けられた第 1 折返部 1 2 b と、凹部 1 2 3 が設けられた第 2 折返部 1 2 c を有する。なお、第 1 折返部 1 2 b に設けられた凸部 1 2 2 は、紙面奥側に向かって突出している。凹部 1 2 3 と凸部 1 2 2 でスナップボタンが構成されている。基部 1 2 a には、第 1 持ち手 1 1 6 と第 2 持ち手 1 1 7 が重ね合わされた状態で載置される。すなわち、基部 1 2 a には持ち手 1 1 5 が載置される。図 4 (c) では、持ち手 1 1 5 を二点鎖線で示している。第 1 折返部 1 2 b は、基部 1 2 a に載置された持ち手 1 1 5 に重ねられる部分である。したがって、基部 1 2 a と第 1 折返部 1 2 b が、持ち手 1 1 5 を挟み込み、持ち手 1 1 5 に接することになる。第 2 折返部 1 2 c は、その第 1 折返部 1 2 b に重ねられる部分である。第 2 折返部 1 2 c が第 1 折返部 1 2 b に重ねられることで、凹部 1 2 3 と凸部 1 2 2 が対向し、押し合わせて凹部 1 2 3 と凸部 1 2 2 を接続する。

【 0 0 4 5 】

第 1 持ち手 1 1 6 と第 2 持ち手 1 1 7 のうちのいずれか一方の持ち手に、基部 1 2 a を固定してもよいが、この例では、ホルダ部材 1 2 は、固定されておらず、持ち手 1 1 5 から取り外し自在である。ホルダ部材 1 2 もバッグ 1 のデザインの一部を構成するものである。持ち手 1 1 5 を肩にかけるのではなく手に持つ場合には、ホルダ部材 1 2 を取り外せ

ば、全体的なイメージが少し変わったバッグとして使用することができるようになる。なお、基部 1 2 a に、第 1 持ち手 1 1 6 と第 2 持ち手 1 1 7 のうちのいずれか一方の持ち手のみを載置することもできる。ただし、持ち手が一つにまとまらず、載置しなかった方の持ち手は、載置した方の持ち手よりも外側（左肩にかけた場合には左側）にある場合には、肩からずり落ちる恐れがある。

【 0 0 4 6 】

図 4 (d) は、接続部 1 3 2 を示す図である。

【 0 0 4 7 】

図 4 (d) に示す接続部 1 3 2 の一端 1 3 2 t は、バックル 1 3 4 の外側部 1 3 4 2 に固定されている。また、図 4 (d) に示す接続部 1 3 2 には、長手方向に間隔をあけて設けられた凸部 1 3 2 1 a と凹部 1 3 2 1 b が示されている。なお、図 4 (d) に示す凹部 1 3 2 1 b は、紙面手前側に向かって凹んでいるが、図 4 (d) では凹んでいる様子は見えない。一方、図 4 (d) に示す凸部 1 3 2 1 a は、紙面手前側に向かって突出している。接続部 1 3 2 は、ホルダ部材 1 2 に巻き掛けられ、ホルダ部材 1 2 のスリット 1 2 1 を通してループ状になり、凸部 1 3 2 1 a と凹部 1 3 2 1 b が対向し、押し合わせて凸部 1 3 2 1 a と凹部 1 3 2 1 b を接続する。図 4 (d) に示す接続部 1 3 2 によって、簡単な構造でストラップ 1 3 をホルダ部材 1 2 に接続させることができる。

【 0 0 4 8 】

図 5 は、第 2 実施形態のバッグを示す正面図である。以下においても、これまで説明したバッグ 1 との相違点を中心に説明し、これまで説明した事項と重複する事項については説明を省略する場合がある。また、これまで説明した構成要素の名称と同じ名称の構成要素には、これまで付した符号と同じ符号を付して説明する。

【 0 0 4 9 】

図 5 に示すバッグ 1 における第 1 胴 1 1 1 には、第 1 持ち手 1 1 6 の左右それぞれにおける取り付け部の外側にファスナ 1 1 1 f が設けられている。このファスナ 1 1 1 f を開くと、収納部 1 1 0 につながっている。このファスナ 1 1 1 f を、図 1 に示すバッグ 1 や、図 4 に示す変形例のバッグ 1 に設けてもよい。

【 0 0 5 0 】

また、図 5 に示すバッグ 1 では、ストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 の構造に特徴がある。図 5 に示す接続部 1 3 2 は、フック部材 1 3 2 2 と係止環 1 3 2 3 から構成されている。フック部材 1 3 2 2 は、係止爪 1 3 2 2 a と長さ調節部 1 3 2 2 b を有する。ナスカン 1 3 1 の取付リング 1 3 1 a に一端が固定されたベルト体 1 3 b の他端は、この長さ調節部 1 3 2 2 b の軸（不図示）に巻き掛けられて長さ調節部 1 3 2 2 b に通されており、長さ調節部 1 3 2 2 b から延びる他端部 1 3 b 1 の長さを調節することで、ベルト体 1 3 b の、取付リング 1 3 1 a と長さ調節部 1 3 2 2 b との間の長さを変えることができる。係止環 1 3 2 3 は、ホルダ部材 1 2 に巻き掛けられ、ホルダ部材 1 2 のスリット 1 2 1 を通してループ状になっており、係止爪 1 3 2 2 a が挿入できるだけの隙間が残されている。図 5 に示すバッグ 1 では、係止爪 1 3 2 2 a が係止環 1 3 2 3 に挿入され、係止爪 1 3 2 2 a が係止環 1 3 2 3 に係止されている。

【 0 0 5 1 】

図 6 は、図 5 に示すバッグの変形例を示す図である。以下、図 5 に示すバッグ 1 との相違点を中心に説明し、これまで説明した事項と重複する事項については説明を省略する場合がある。また、これまで説明した構成要素の名称と同じ名称の構成要素には、これまで付した符号と同じ符号を付して説明する。

【 0 0 5 2 】

この変形例では、ストラップ 1 3 が、図 5 に示すストラップと異なる。図 6 に示すストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 は、ナスカン 1 3 2 4 と取付リング 1 3 2 5 から構成されている。図 6 に示すストラップ 1 3 では、ベルト体 1 3 b の両端それぞれに、ナスカン 1 3 1 , 1 3 2 4 と取付リング 1 3 1 a , 1 3 2 5 が設けられている。そして、ホルダ部材 1 2 には、スリットの代わりに D カン 1 2 4 が設けられている。図 6 に示す接続部 1 3 2 を構

成するナスカン 1 3 2 4 は、この D カン 1 2 4 に接続されている。

【 0 0 5 3 】

図 7 は、第 3 実施形態のバッグを示す正面図である。以下においても、これまで説明したバッグ 1 との相違点を中心に説明し、これまで説明した事項と重複する事項については説明を省略する場合がある。また、これまで説明した構成要素の名称と同じ名称の構成要素には、これまで付した符号と同じ符号を付して説明する。

【 0 0 5 4 】

図 7 に示すバッグ 1 のストラップ 1 3 は、図 4 を用いて説明したストラップと同じく、バックル 1 3 4 が設けられている。ただし、図 4 (a) に示す長さ調節部材 1 3 3 は設けられていない。なお、この長さ調節部材 1 3 3 を設けてもよい。また、ストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 も、図 4 (d) に示す接続部と同じ構造である。

10

【 0 0 5 5 】

図 7 に示すバッグ 1 では、ホルダ部材 1 2 が、持ち手 1 1 5 の、肩にかける部分をほぼ覆う程の長さをもった、いわゆるカバー状のものである。このカバー状のホルダ部材 1 2 は、ファスナ 1 2 5 を閉めることで持ち手 1 1 5 を覆う。図 7 に示すホルダ部材 1 2 には、持ち手 1 1 5 の長さ方向に沿って、複数の巻き掛け部 1 2 6 が設けられている。ストラップ 1 3 の接続部 1 3 2 は、この巻き掛け部 1 2 6 に通されることでホルダ部材 1 2 に巻き掛けられ、スナップボタン 1 3 2 1 によって留められ、ホルダ部材 1 2 に接続している。図 7 に示すホルダ部材 1 2 は、これまで説明したホルダ部材よりも長い領域で持ち手 1 1 5 に接している。一方、持ち手 1 1 5 に対するストラップ 1 3 の接続位置は、これまでのホルダ部材 1 2 を用いた場合には、連続的に変更可能であった。すなわち、任意の位置にすることができた。一方、図 7 に示すホルダ部材 1 2 では、接続位置は予め決められた離散的な位置になる。

20

【 0 0 5 6 】

本発明は上述の実施の形態に限られることなく特許請求の範囲に記載した範囲で種々の変更を行うことができる。例えば、第 1 持ち手 1 1 6 は、第 1 胴 1 1 1 と別体のものであったが、第 1 持ち手 1 1 6 と第 1 胴 1 1 1 は一体のものであってもよい。第 2 持ち手 1 1 7 も、第 2 胴 1 1 2 と別体のものであったが、第 2 持ち手 1 1 7 と第 2 胴 1 1 2 も一体のものであってもよい。また、底部 1 1 3 を省略し、第 1 胴 1 1 1 と第 2 胴 1 1 2 における互いの底縁どうしを縫い合わせてもよい。あるいは、第 1 胴 1 1 1 と第 2 胴 1 1 2 の間にマチ部を設けてもよい。また、ストラップ 1 3 の一端は、袋体 1 1 の底側に接続されているが、袋体 1 1 の底側とは、例えば、第 1 胴 1 1 1 の下半分部分であれば位置は限定されない。さらに、ストラップ 1 3 は、袋体 1 1 の底側を通して一端は、底部とは異なる場所に接続されていてもよい。すなわち、ストラップ 1 3 は、袋体 1 1 の底側と、持ち手 1 1 5 を結ぶものであればよく、ストラップ 1 3 の端部がどこに位置するかは限定されない。

30

【 0 0 5 7 】

なお、以上説明した実施形態や変形例の記載それぞれにのみ含まれている構成要件であっても、その構成要件を、他の実施形態や他の変形例に適用してもよい。例えば、ファスナ 1 1 1 f が設けられていない第 1 胴 1 1 1 にファスナ 1 1 1 f を設けてもよいし、長さ調節部材 1 3 3 が設けられていないストラップ 1 3 に長さ調節部材 1 3 3 を設けてもよいし、バックル 1 3 4 が設けられていないストラップ 1 3 にバックル 1 3 4 を設けてもよい。

40

【 0 0 5 8 】

最後に、これまで説明したことを含めて、高品質なバッグであったり、スタイリッシュなバッグを提供するための技術的思想を、以下に付記する。

【 0 0 5 9 】

(付記 1)

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、
前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、
前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、

50

前記ホルダ部材は、前記持ち手に沿って移動可能なものであることを特徴とするバッグ。

【 0 0 6 0 】

(付記 2)

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、
前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、
前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、
前記ホルダ部材は、前記持ち手から取り外し自在なものであることを特徴とするバッグ。

【 0 0 6 1 】

(付記 3)

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、
前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、
前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、
前記袋体は、第 1 胴と第 2 胴の間に収納空間を有するものであり、
前記持ち手は、前記第 1 胴に設けられた第 1 持ち手と、前記第 2 胴に設けられ、該第 1 持ち手とは離れた第 2 持ち手を含むものであり、
前記ホルダ部材は、前記第 1 持ち手と前記第 2 持ち手を一つにまとめることが可能なものであることを特徴とするバッグ。

【 0 0 6 2 】

(付記 4)

前記ホルダ部材は、前記第 1 持ち手と前記第 2 持ち手のうちのいずれか一方の持ち手にのみ取り付けられることも可能なものであることを特徴とする付記 3 に記載の記載のバッグ。

【 0 0 6 3 】

付記 1 ～ 4 に記載の技術的思想によれば、高品質なバッグであったり、スタイリッシュなバッグを提供することができる。

(付記 5)

肩にかけることが可能な持ち手が設けられた袋体と、
前記持ち手に取り付けられたホルダ部材と、
前記袋体の底側と前記ホルダ部材を結ぶストラップとを備え、
前記ホルダ部材は、前記ストラップの幅よりも長い領域で前記持ち手に接しているものであることを特徴とするバッグ。

なお、前記ホルダ部材は、前記ストラップの幅よりも 2 倍以上長い領域で前記持ち手に接しているものであってもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 4 】

- 1 バッグ
- 1 1 袋体
- 1 1 0 収納部
- 1 1 1 第 1 胴
- 1 1 2 第 2 胴
- 1 1 3 底部
- 1 2 ホルダ部材
- 1 3 ストラップ
- 1 1 5 持ち手
- 1 1 6 第 1 持ち手
- 1 1 7 第 2 持ち手
- W 1 幅
- W 2 領域

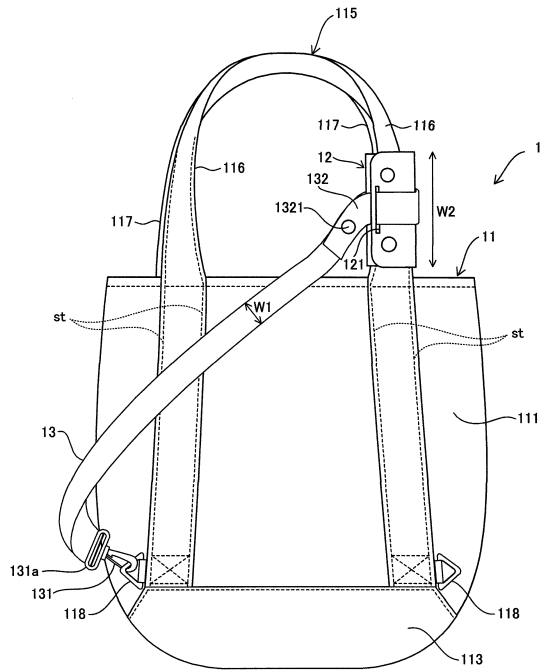
10

20

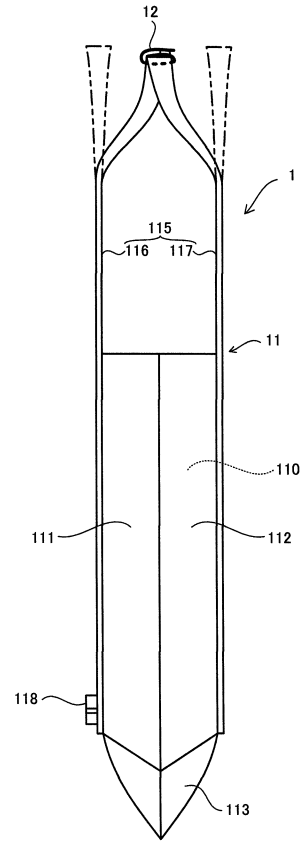
30

40

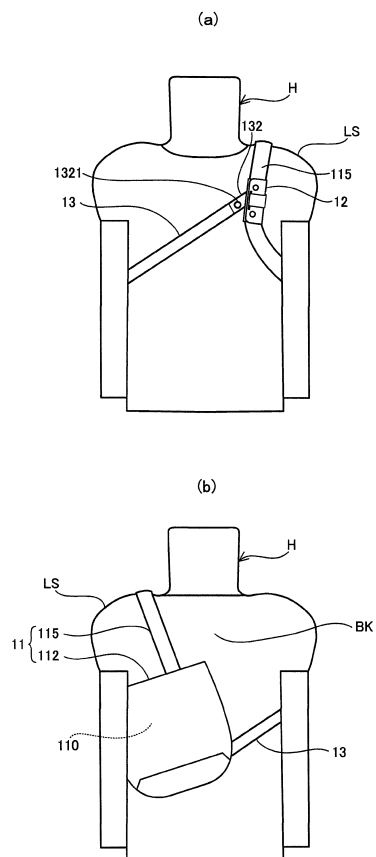
【図 1】



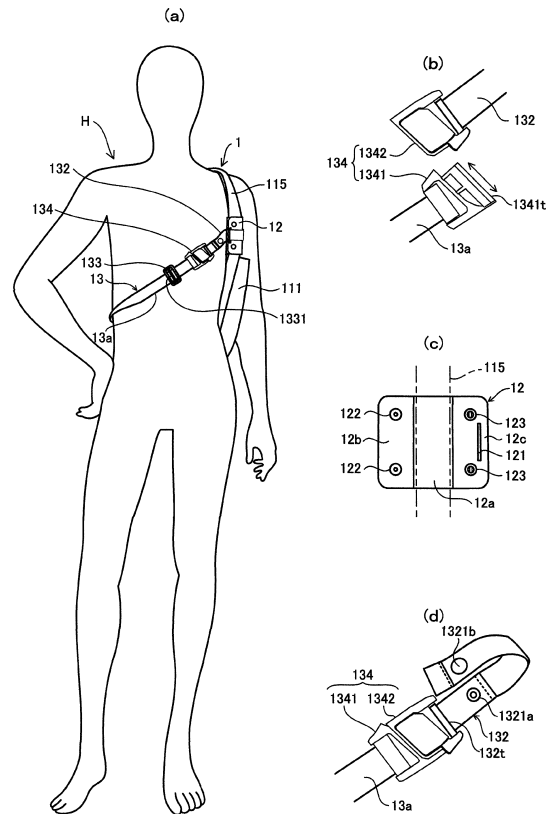
【図 2】



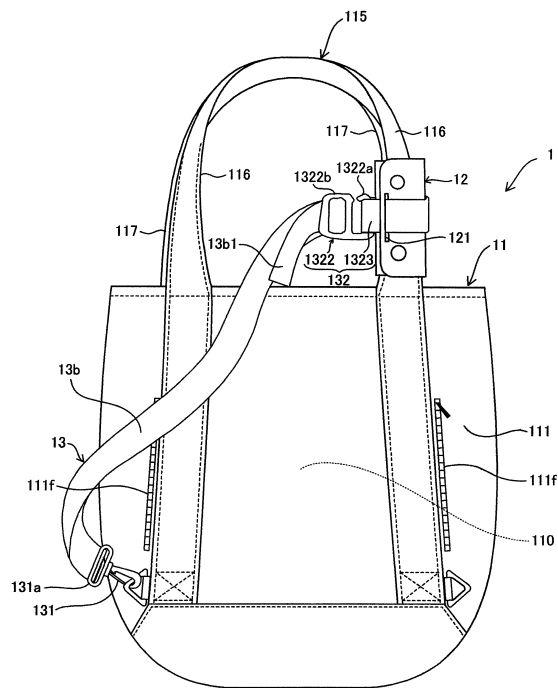
【図 3】



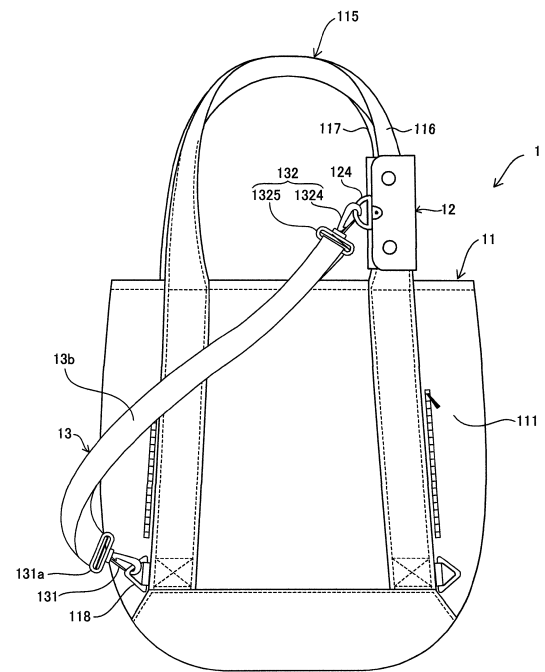
【図 4】



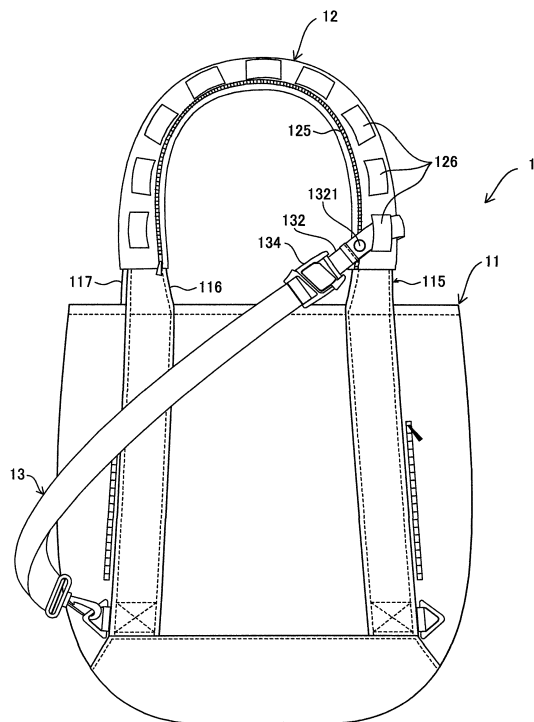
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(56)参考文献 登録実用新案第3072144(JP,U)
国際公開第2018/097002(WO,A1)
国際公開第2015/019996(WO,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
A45C 3/00